

第22回エコプレミアムクラブ シンポジウム

資源循環社会構築の支援について

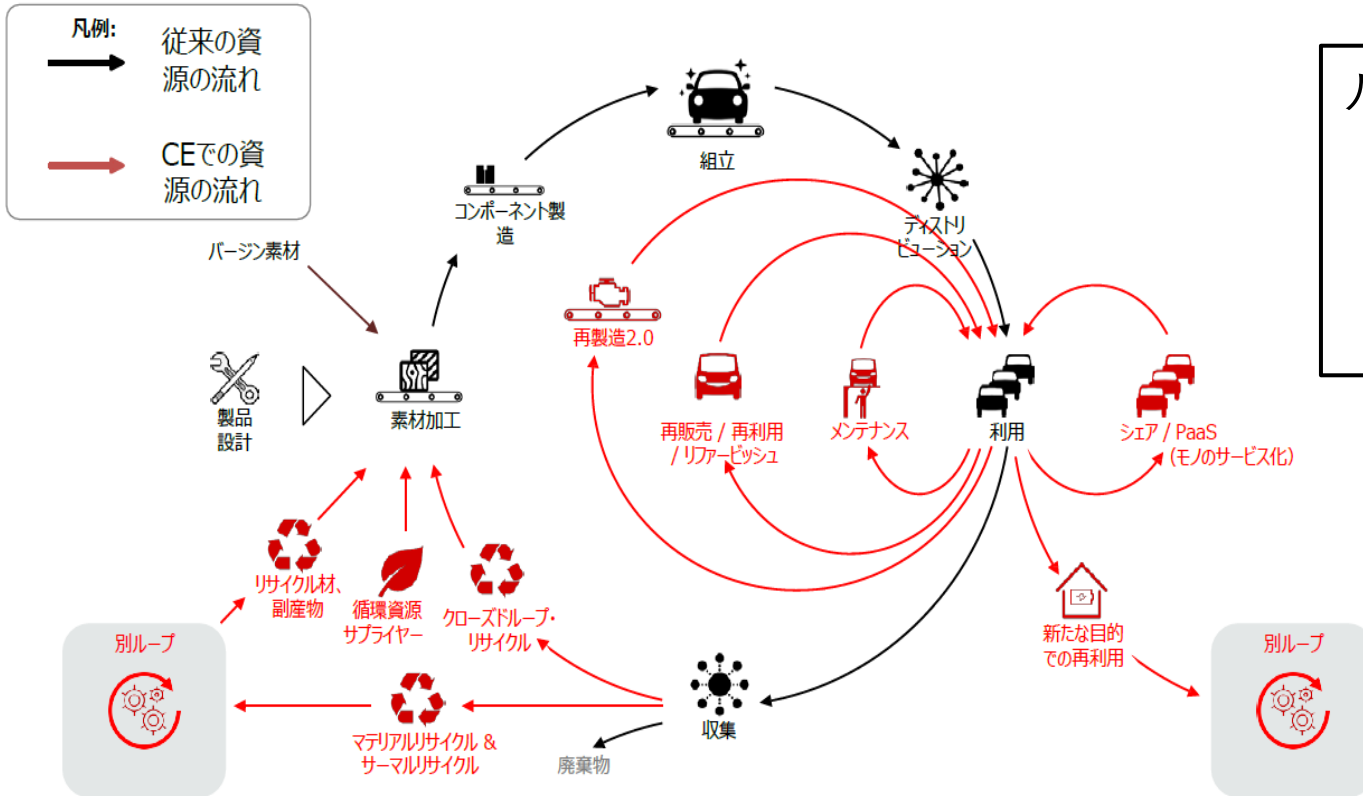
－（公財）廃棄物・3R研究財団の事業－

2025年8月6日

梶原成元

（公財）廃棄物・3R研究財団

資源循環・循環経済とは



循環経済ビジョン2020(概要)より

ループを

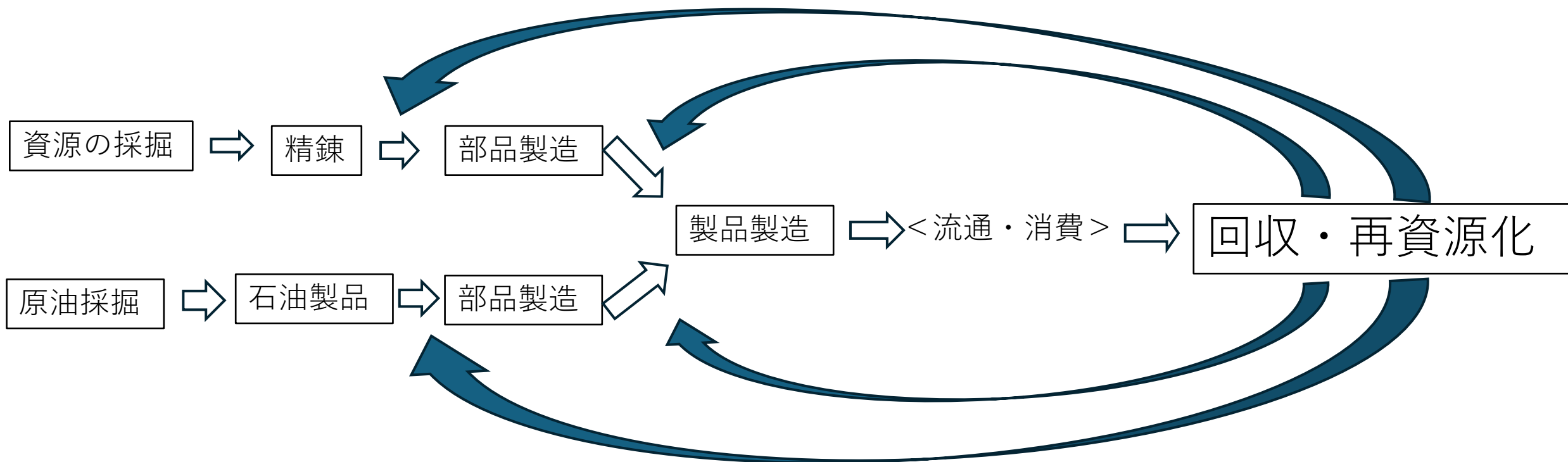
- ①できるだけ丸く閉じる
- ②できるだけ小さく (効率的に)
- ③できるだけ中でとどめる

3 R では届かなかった世界

3 Rがないと達成できない世界

3 Rが変わらなくてはならない世界

バリューチェーンの一員としての資源循環ビジネス



VCの一員として求められる機能の確保：

十分な量、高い質、再生材の正当性を担保する情報、
必要な時に必要なだけ提供する能力、再生できないモノの確実な処理

動静脈連携とは：意見の双方向交換、情報の双方向交換、役割や負担の相互性

廃棄物・3R研究財団の業務の全体像

1. 災害廃棄物対策に係る人材育成
2. **廃棄物の資源循環事業への施設整備補助**
3. 海面埋め立てによる最終処分場の安定化調査 ⇒ 閉鎖
4. プラスチック資源化促進法に基づく調査事業 ⇒ 循環設計
5. 資源循環ビジネスの海外展開の促進事業：事業化F S補助、
情報共有（環境アタッシュェ、会員企業）
6. IC基盤の輸入促進を通じた資源循環促進 ⇒ 広域循環圏
7. **3R・資源循環促進フォーラム：産官学民の参加を通じた国民運動**
8. 共同研究
9. **3R循環経済研究会の実施**
10. 3R・廃棄物ニュースの発行（2回/月）
11. その他の委託事業

廃棄物・3R研究財団が行う施設整備支援

助成内容	R6予算(含補正)	R7予算(含補正)
①省CO2型プラスチック資源循環設備	70億円	60億円
②金属破砕・選別設備		
③バイオプラスチック製造設備		
④太陽光パネルリサイクル設備		
⑤リチウム蓄電池リサイクル設備		
⑥先進的な資源循環投資事業（GX予算）： 廃プラ、金属・蓄電池、廃油	50億円	150億円
⑦再エネ関連製品及びベース素材の全体最適化実証	3億円	3億円
⑧自動車用廃プラ：破砕設備・分析設備	—	10億円の一部
⑨廃棄物のエネルギー利用高度化	12億円	17億円

PVパネルのリサイクル事業の最近の補助実績

R 4	(株) 協和商会	神奈川県川崎市
	(株) 石坂産業	埼玉県入間郡三芳町
	(株) 九州北清	宮崎県小林市
R 5	(株) 窪田窪商店	兵庫県神戸市
R 6	(株) ナコード	千葉県袖ヶ浦市
	(株) 第四北越リース	新潟県新潟市
R 7	(株) 環境保全サービス	岩手県奥州市
	(株) トーエイ	愛知県常滑市

3 R・資源循環推進フォーラム

◎沿革：1992「ごみ減量化推進国民会議」と発足。

◎組織：会長 細田衛士 東海大学学長補佐
（細田先生は、3 R推進協議会会長も）
自治体会員：81 民間団体66

◎活動：3 R推進全国大会、3 R促進ポスターコンクール
循環・3 Rリレーセミナー（3 R推進協議会と共催）
容器包装交流セミナー（3 R推進団体連絡会と共催）
プラスチック資源循環研修会（プラ協等との共催）
3 R・循環経済先進事例研究発表会（3 R推進協議会と共催）
など

資源循環自治体フォーラムについて

◎趣旨：関係閣僚会議の「循環経済への移行加速化パッケージ」に位置づけ。

関係省庁が一堂に参加。自治体と企業の交換の場を設け、新規事業の創設を推進

◎概要：2025年9月12日10：00～17:00 申込先：<https://www.jwrf.or.jp/SJJ-forum2025.html>

大阪府立男女共同参画・青少年センター

◎内容：

第1部：基調講演 3R・資源循環促進フォーラム会長、東海大学学長補佐 細田衛士 先生

環境省環境再生・資源循環局長 角倉一郎 様

政策・予算：環境省、経済産業省、内閣府、消費者庁、農林水産省、国土交通省

J4CE： 日本経済団体連合会

金融界： 日本政策投資銀行（DBJ）

地域資源×循環経済×脱炭素化： 脱炭素化支援機構（JICN）

第2部：個別テーマに分かれた少人数意見交換

①使用済製品のリユースの推進、②自治体と事業者が連携したプラ回収・再商品化の推進

③小型家電リサイクルの推進等、④サステナブルファッションの推進、

⑤-1 下水汚泥資源の肥料利用の推進 ⑤-2使用済紙おむつリサイクルの推進、

⑥食品ロス削減・食品リサイクルの推進、⑦家庭ごみの分別回収の推進

⑧森林資源の循環利用の推進

スタートアップ企業による革新的な技術やビジネスモデルの紹介、フォーラム参加者による意見交換

全国大会となる大阪府におけるフォーラムの開催に加え、他のブロック（6か所）で、〇〇地方資源循環自治体フォーラムを開催予定

3 R・循環経済研究会について

参考

目的： 資源循環ビジネスにおける循環経済の自分事化

活動内容： ①勉強会の開催 5回／年
②海外視察 1回／年
③国内視察 1～2回／年

会員： 1. 学識経験者（敬称略）

栗生木 千佳（IGES）、梅田靖（東京大学）、大迫政浩（座長、国環研）、大塚直（早稲田大学）、喜多川和典（生産性本部）、高岡昌輝（京都大学）、中谷隼（東京大学）、橋本征二（立命館大学）、山本雅資（神奈川大学）、吉岡敏明（東北大学）

2. 行政関係者：環境省、東京都、横浜市、川崎市

3. 民間事業者（47社、「株」除く五十音順、2025年4月時点）

アサヒセイレン、アミカテラ、イオン、石坂産業、石塚化学産業、いその、エイト日本技術開発、エコマ、エックス都市研究所、応用地質、オオノ開発、大原鉄工所、カナデビア、環境管理センター、クボタ、極東開発工業、三光、三友プラントサービス、J&T 環境、JFEエンジニアリング、JEMS、進栄化成、神鋼環境ソリューション、新明和工業、新菱、青南商事、大栄環境、太平洋セメント、タクマ、田中石灰工業、TRE ホールディングス、テラレムグループ、トベ商事、富山環境整備、豊田通商、DOW Aエコシステム、西日本ペットボトルリサイクル、日鉄エンジニアリング、日本オートリサイクル、日本シーム、パシフィックコンサルタンツ、HARITA、平林金属、御池鐵工所、三菱ケミカル、リョーシン、レックスホールディングス

開催実績（その1）

参考

	第1部	第2部
第1回 (2023年1月)	我が国の3R・循環経済政策(環境省)	今後の進め方について、意見交換
第2回 (2023年3月)	①循環経済の背景、基本概念、 世界の動き(仮題) (栗生木委員)	②循環経済とビジネス、循環産業に与える影響(仮題) (喜多川委員)
第3回 (2023年5月)	成長志向型の資源自律経済デザイン戦略 (経産省)	① DOWAエコシステム ② VOLTA
第4回 (2023年8月)	プラスチックの資源循環 (その1) (吉岡委員)	①ビジネス界の動き： プラ協久保専務 ②分別技術： EEFA佐々木代表 ③ソーティングセンターを核とした水平リサイクル・東京CEセンター古澤
第5回 (2023年9月)	プラスチックの資源循環 (その2) (中谷委員)	①ケミカルリサイクル： 三菱ケミカル ②バイオプラスチック： カネカ ③プラー括回収・リサイクル： J&T環境
第6回 (2023年11月)	デジタル製品パスポートとトレーサビリティ (経産省、橋本委員)	①静脈産業事例： JEMS ②動脈産業事例： 旭化成 (Blue Plastics)
第7回 (2024年1月)	再エネ設備及び繊維製品の資源循環 (環境省)	①PV関係： 新菱 ②繊維製品関係： イオン

開催実績（その2）

参考

	第1部	第2部
第8回 (2024年6月)	資源循環分野における技術開発（GI基金） (環境省、高岡委員)	①日鉄エンジニアリング ②日立造船 ③JFEエンジニアリング ④水ingエンジニアリング
第9回 (2024年7月)	脱炭素型資源循環システムの構築 (環境省、パシコン)	①協栄産業 ②富士加飾
第10回 (2024年9月)	資源循環分野における技術開発（S I P） (伊藤東京大学教授)	①SIP採択プロジェクト：NEC ②SIP採択プロジェクト：アミタホールディング ③SIP採択プロジェクト：富山環境整備
第11回 (2024年12月)	第5次循環基本計画の狙い (環境省)	①パネルディスカッション ②今後の3R循環経済研究会の進め方
第12回 (2025年2月)	自動車用再生プラスチックの確保に向けた 動静脈連携の強化について (デンソー、いその)	①パネルディスカッション (②今後の3R循環経済研究会の進め方)
第13回 (2025年6月)	循環経済への移行加速化パッケージ及び の環境省のR5補正・R6予算について (環境省)	①PVパネルのリユース・リサイクルの最先端：DOWA エコ ②PVパネルのリユース・リサイクルの最前線：浜田
2025年7月	第1回国内視察（富山環境整備、HARITA、リョーシン）	